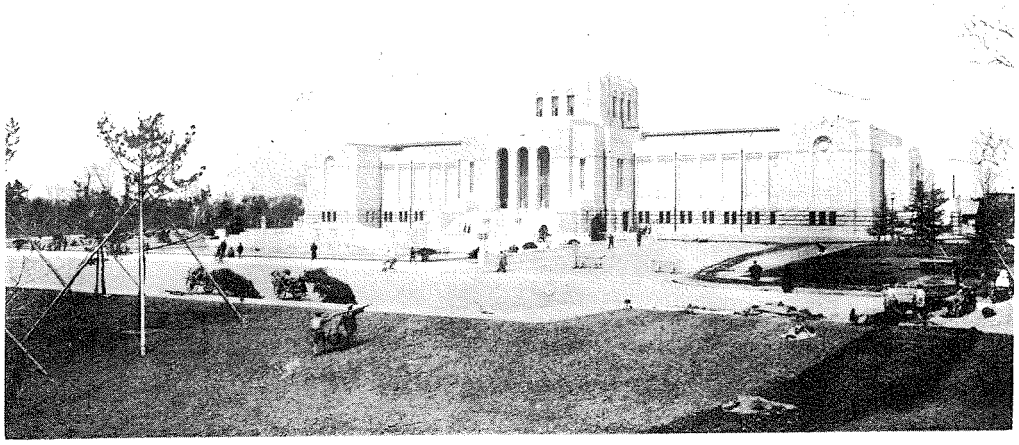
Art Gallery in memory of the Eemperor Maiji.



(1) 聖德記念繪畫館全景　　(1) General View of Memorial Art Gallery.

明治神宮外苑

聖德記念繪畫館工事に就て

工學士　小林政一

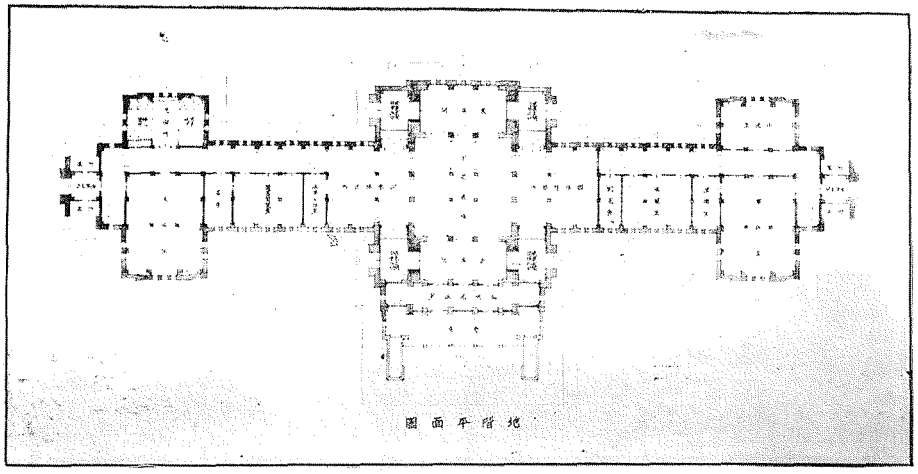
明治時代を代表すべき此の大建築は實に外苑の壯嚴なる美に最もふさわしいものであります。本號に說明記事を寄せられた小林氏は明治神宮造營局の技師として外苑の諸建築の設計施工を擔當された主任者で、目下は東京高等工業學校の教授で建築科長の任にある人です。

聖德記念繪畫館は、祭神御一代の御事蹟中最も重要なる事項を繪畫に表はし壁面に掲げ、以て普く一般の觀覽に供し、永く　先帝先后兩陛下の鴻業を記念し聖德を景仰せしめんがため建設したもので、大正八年工事に着手し約七年の歲月を經て本年三月竣工した、工事の概要は左の通りである。

規模　外苑の北方葬場殿の前方約四十間の位置に南面して建設し、前面には廣場を隔てゝ泉池を配し背面及東西側は廣場を隔てゝ一帶の樹林に接せしめた。建物は二層建とし、主階を繪畫室及廣間等に充て地階を事務室用に充て、正面には大階段及公衆入口を、背面には公衆出口を又兩側面には事務入口及階段等を設け、建坪は地階に於て七百五十八坪主階に於て約六百八十一坪で、軒高は中央部に於て約六十尺、兩側部に於て約四十九尺及五十五尺で、圓塔の頂上まで百六尺である。敷地一帶を周廻道路よりも約五尺の高さに盛土をなし建設し、東西の長さ約六十二間、南北(中央部)約十九間である。

間取　主階の中央には床面積約八十一坪の大廣間を設け其の前後には表廣間、裏廣間、公衆用階段室(四室)巡視室(二室)、玄關等を配し、正面大階段に依り直接に又は階段室に依り地階より通ぜしめ、廣間の兩側に繪畫室及事務員用階段室等を設く。

繪畫室は東西各々二室づつとして東側を日本畫の部とし一號(御降誕)より四十號(初雁の御歌)までの繪畫を掲げ、西側を西洋畫の部とし四十一號(グランド將軍と御對話)より八十號(大葬)までの繪畫を年代順に依り陳列



(2) 聖德記念繪畫館地階平面圖　　(2) Plan of Ground Floor.

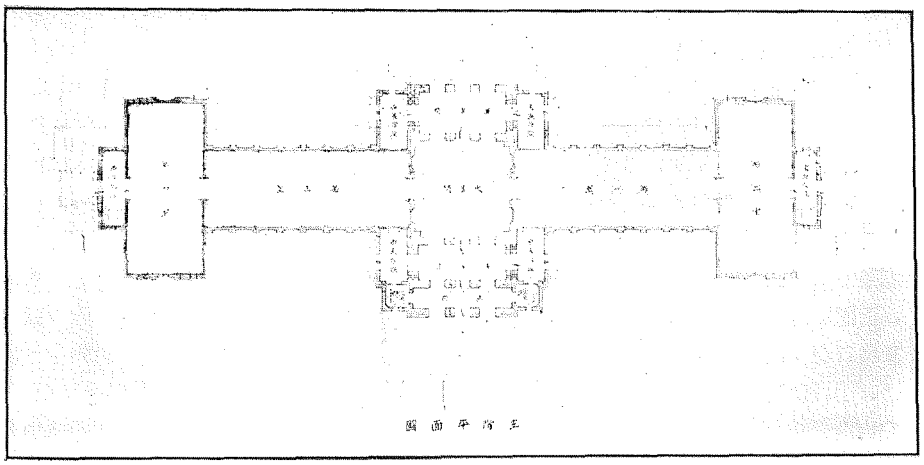
する豫定である。

地階には中央部に公衆入口、切符賣場、廣間、下足預所、携帶品預所、休憩室(二ヶ所)公衆出口、巡視室等を配し、東側には來賓室事務室(二室)、配電室、小使室等を、西側には圖書室、閲覽室、豫備室、便所及び洗面所等を、其の他機械室、倉庫、事務員出入口等を設けてある。

構造　基礎、柱、床、壁等は悉く鐵筋混凝土造こなし、外壁及外階段は全面岡山產萬成花崗石を以て表裝し、繪畫室屋根は鐵骨小屋組を架したる上に下部に鐵筋混凝土のスラブを施し、上部に鐵網張の**モルタル**塗りを施し銅板葺こし、其の間の傾斜面を採光のため硝子張りこしたのである。表裏廣間、玄關等の屋根は鐵筋混凝土の陸屋根こし、中央部大廣間の上部は高く圓塔こなし鐵筋混凝土の球狀**スラブ**に**タイル**張りである。

室內仕上　中央部主階の各廣間の壁面には高さ約四十尺の間を大理石及一部タイル等を以て張付け、其の上部は壁及天井を**プラスター**塗りこして着色を施したのである。天井は鐵骨を力骨こして金網を張り**モルタル**塗りの下地を造て仕上を施せる二重天井こなし、また大理石は美濃赤坂產の各種の石材を大部分こし、其他愛媛縣、群馬縣、山口縣、福島縣朝鮮等より產出のものを適當に組合せて張付け、床は混凝土床上に直接タイル張り又はモザイク等を施したのである。

繪畫室の壁は鐵筋混凝土壁の內側に約一尺



(3) 同上主階(壁畫室)平面圖　　(3) Plan of Main Floor.

内外の空隙を置いて木造の壁體を造り二重壁となし繪畫をはめ込むべき部分を除きては全部欅材仕上に**ラック**塗りとし上壁及天井の兩側部は鐵骨を力骨として金網を張り、**モルタル**を塗り其の上に**プラスター**を塗り着色を施したのである。繪畫室の中央部中約十六尺の部分は全部硝子張りとして繪畫室の採光に充てる、床は混凝土床上に板張りをなし、更に欅材の寄木張りとしたのである。

尙中央大廣間の天井は高さ約八十九尺、繪畫室は約二十七尺である。

地階に於ては中央部公衆出入口、廣間、休憩室等の壁面に大理石を張り床に**タイル**を張り來賓室に多少の裝飾を施したる外成可く實用的のものとし、壁及天井を**プラスター**塗り床を**リノリウム**敷き又は人造石塗りとして裝飾を省き、各室共質素なるものとしたのである。

設備　繪畫室は幅内法三十六尺、長さ百〇三尺及八十四尺で、床上約三尺三寸の高さに約二尺五寸の間隔を置て壁面全部に繪畫を陳列するのである。繪畫の大さは高さ九尺とし幅は陳列位置に依り多少の差異あるも約八尺内外に割合せたる寸法で、之を額縁内に納め壁面にはめ込むこととした。壁面、天井、額縁等の着色は西洋畫室と日本畫室で多少配合を異にしたけれども大體に於て成可く一樣の體裁とするを主旨とし、且つ成可く地味な裝飾を施すこととしたのである。繪畫室の換氣は天井に換氣孔を設ける自然換氣をなさしむる外、腰羽目内に多數の通氣孔を設け、之より導管により屋上に導きたる空氣を排氣機に依り排出する裝置を設け、防濕設備としては外壁を木造の二重壁としたる外、腰羽目内に電熱器を配列して、繪畫面を裏面より多少温むることにより空中水分の凝結を防ぐ裝置を設けた。また採光は全部頂光に依ることとし尙屋根裏に光線を調節する裝置を設けて、季節、晴雨等に依り繪畫面の照度を適當に調節するものとした、又夜間照明としては蛇腹裏に電燈を配列し光線を天井面より反射せしめ所謂間接照明とし、煖房は電氣煖房として總計六十キロの電熱器を備へ、また各室毎に防火扉を設けて萬一に備へることとした。

其の他本館では一切火氣を使用しないこととし、各室の煖房は勿論小使室の湯沸しに到るまで總て電熱器を用ひ、且つ要所には消火栓を設けて萬一に備へてある。また便所及洗面室等の汚水は處理裝置に依り淨化の上、下水に放流す設備である。

設計　繪畫館の設計は大正七年一般の懸賞競技に依り募集して得た一等當選圖小林正紹氏案を基とし、之に改竄を加へ立案したもので工學博士佐野利器氏の指導の下に成つたのである。樣式は所謂近世式で外苑の風致と調和を保ち、雄偉剛健なる風致を表すに努めたのである。

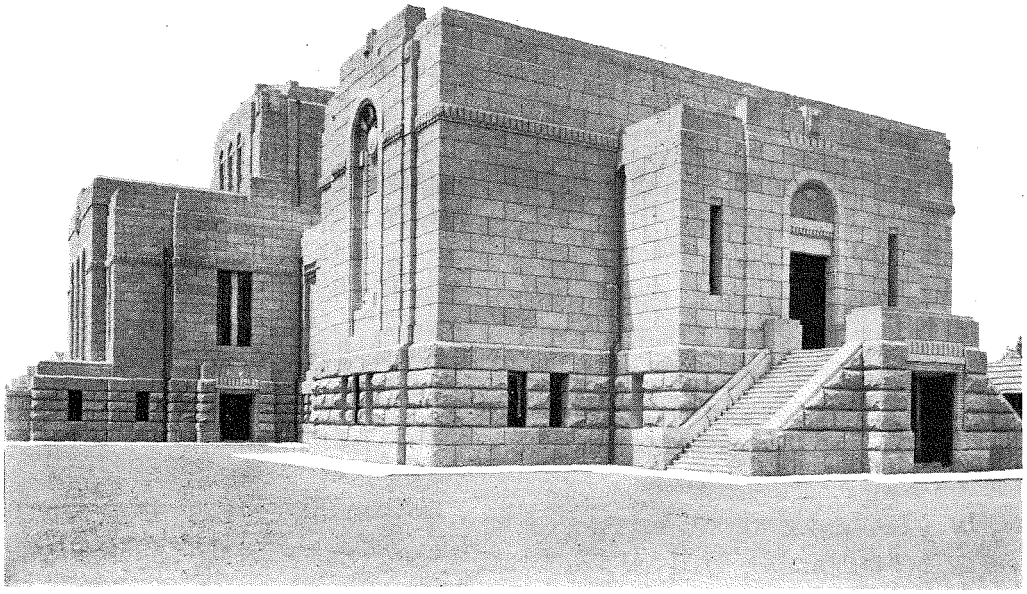
工事は大正八年三月敷地一帶の土工事に着手し、六月之を完了し、同十月基礎工事を請負に付し施工を進めたが當時物價及勞銀の暴騰甚しく工事の遂行覺束なきに到つたので、已むを得ず約一ヶ年休止した。然るに大正十年に入り物價や勞銀が幾分安定したので工事を續行し、漸く外廓工事を完了するに到りたるに、大正十二年の大震災に會し、再び中止するの已むなきに到りたるも幾許もなく續行するを得て今回漸く竣工した次第である。

本工事に使用した材料の主なるものは、**セメント**約一萬七千樽、砂利、砂合計約二千三百立坪、鋼材七百噸、花崗石八萬千八百切、大理石三萬千五百四十三平方尺、欅材五百四十石、タイル一萬千五百平方尺等で、使用したる職工數約十八萬人である。尙材料は錠前硝子の一部及額縁用チーク材を除いては悉く國產品を使用し施工したのである。

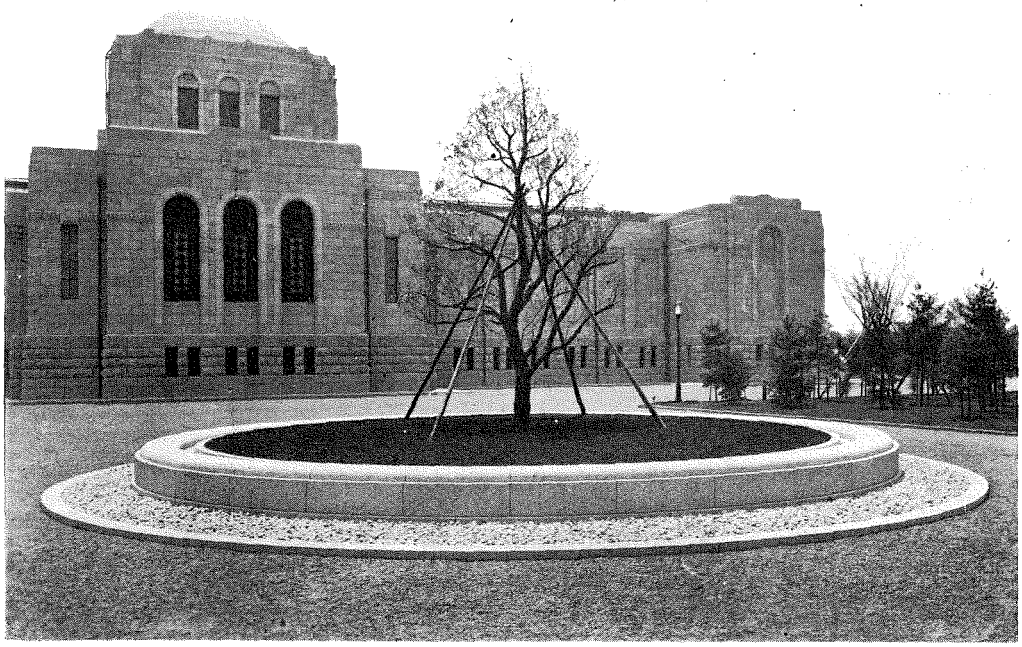
施工は部分的に分割して請負はしたのであるが建築工事の主要部は大倉土木株式會社、大理石工事は矢橋大理石店、ブロンズ金具製作は田島工場等の施工に係るものである。

工費　工事は左の通りである。

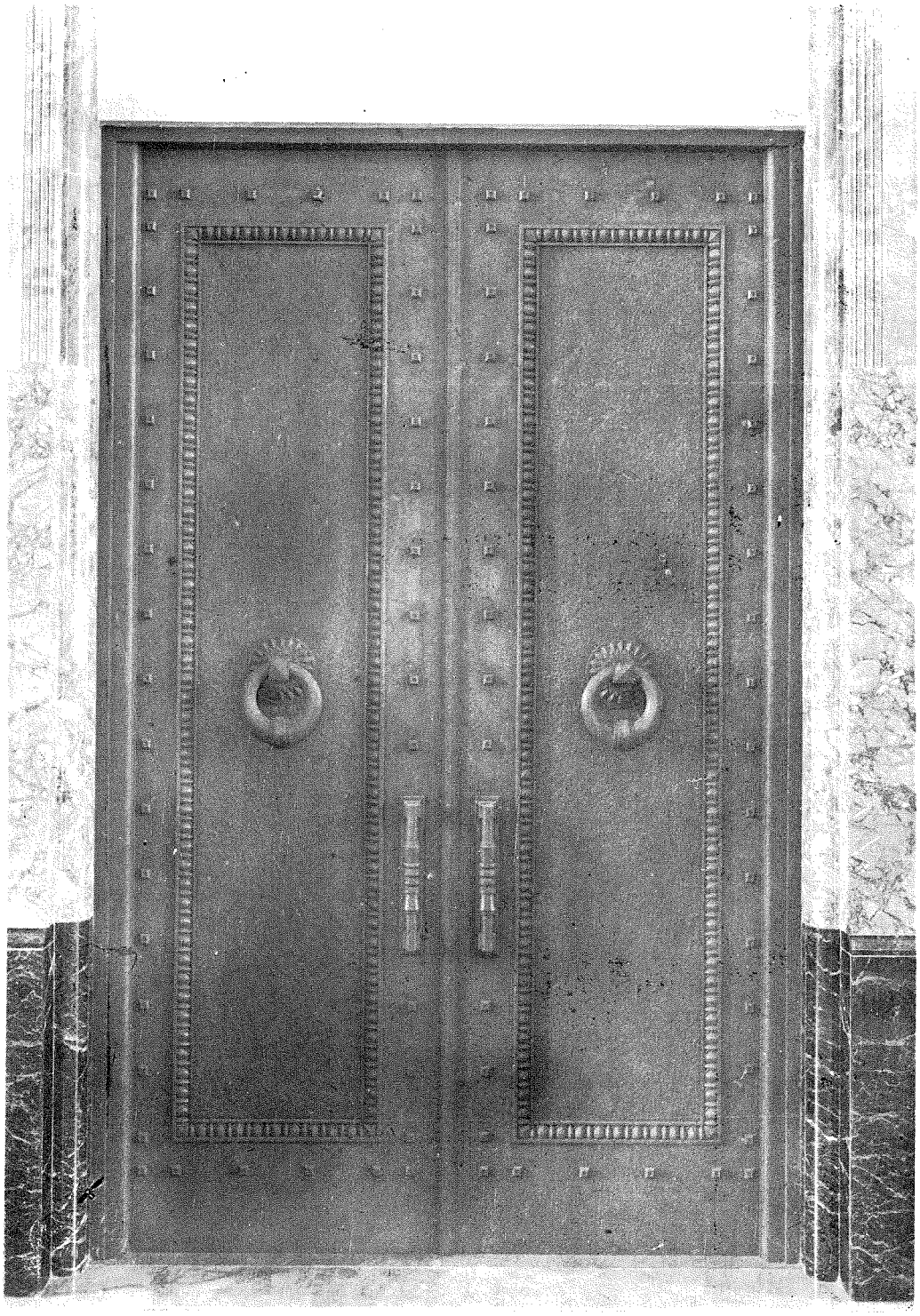
工費總額2,527,345圓、内譯　一、地形土工費33,099二、鐵筋混凝土工事費409,444三、石工事費529,869四、小屋組及屋根工事費102,006五、内部仕上工事費859,062六、雜工事費206,406七、諸設備費111,000八、工事雜費276,459



(4) 聖德記念繪畫館側面實景　　(4) Side View of the Gallery.



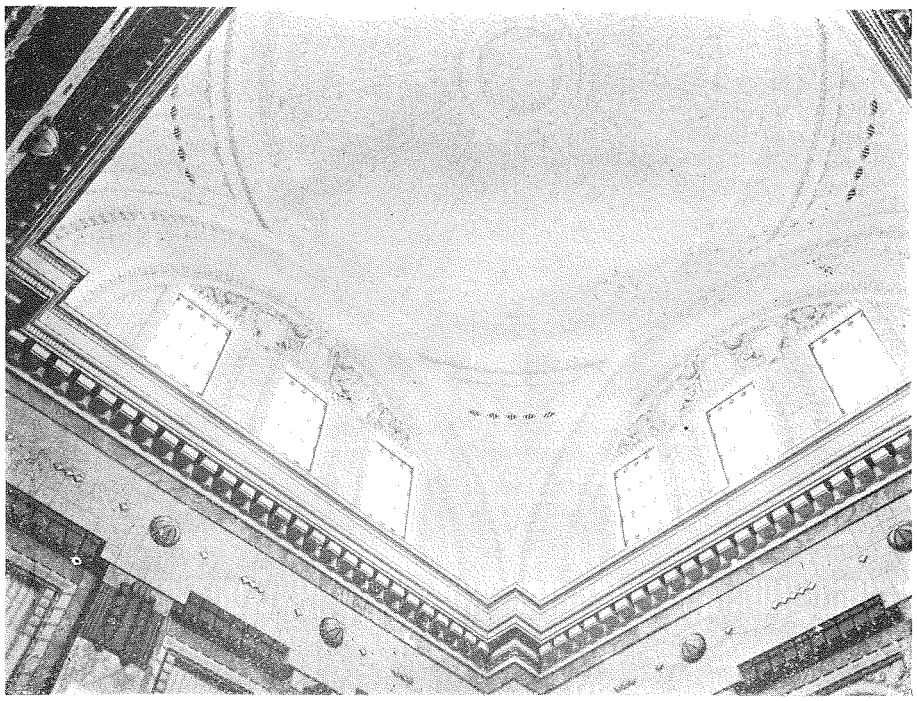
(5) 明治大帝葬場殿跡の記念樹　　(5) The Memorial Tree for the Great Emperor, "Meiji."



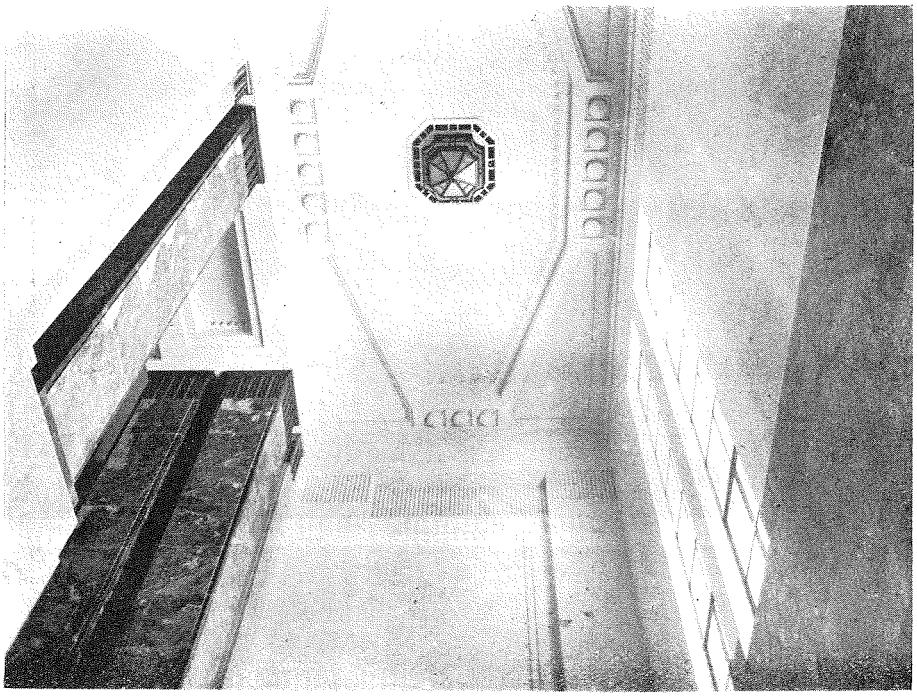
(6) 聖德記念繪畫館主階(壁畫室)正面玄關扉、ブロンズ

(6) Main Entrance.

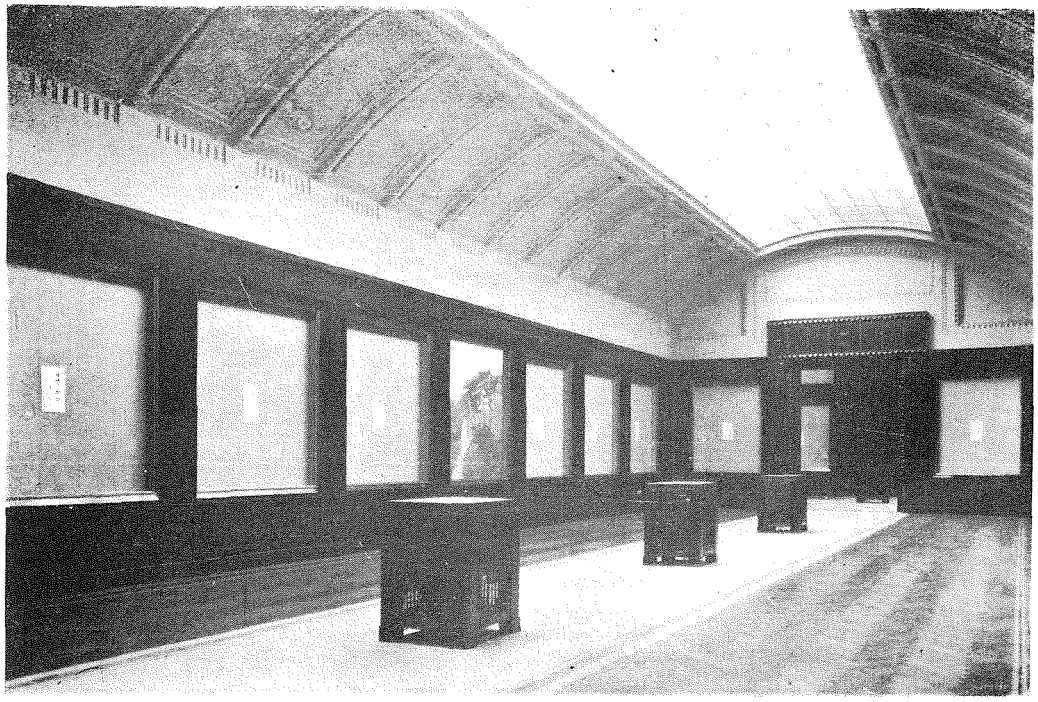
(7) 製聖德記念繪畫館主階廣間の壁　　(7) The Wall of the Gallery.



(8) 聖德記念繪畫館主階廣間天井　　(8) View of the Ceiling.

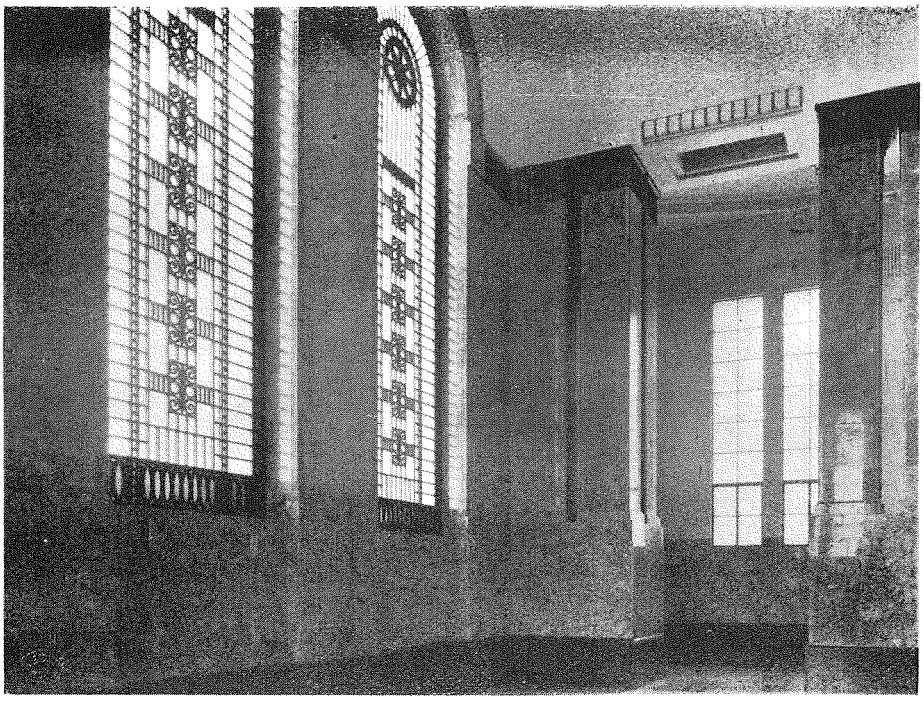


(9) 同上主階玄關天井　　(9) Hall Way Ceiling.

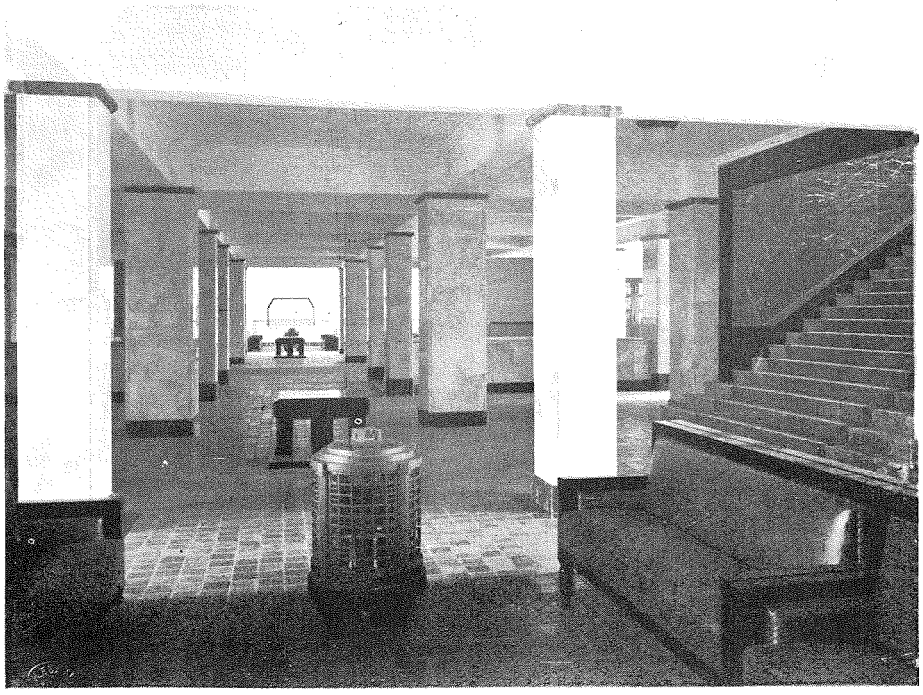


(10) 聖德記念繪畫館壁畫室右翼　　(10) Side Wall for Displaying the Pictures.

(11) 同上壁畫室の中央休憩室　　(11) The Rest Room.

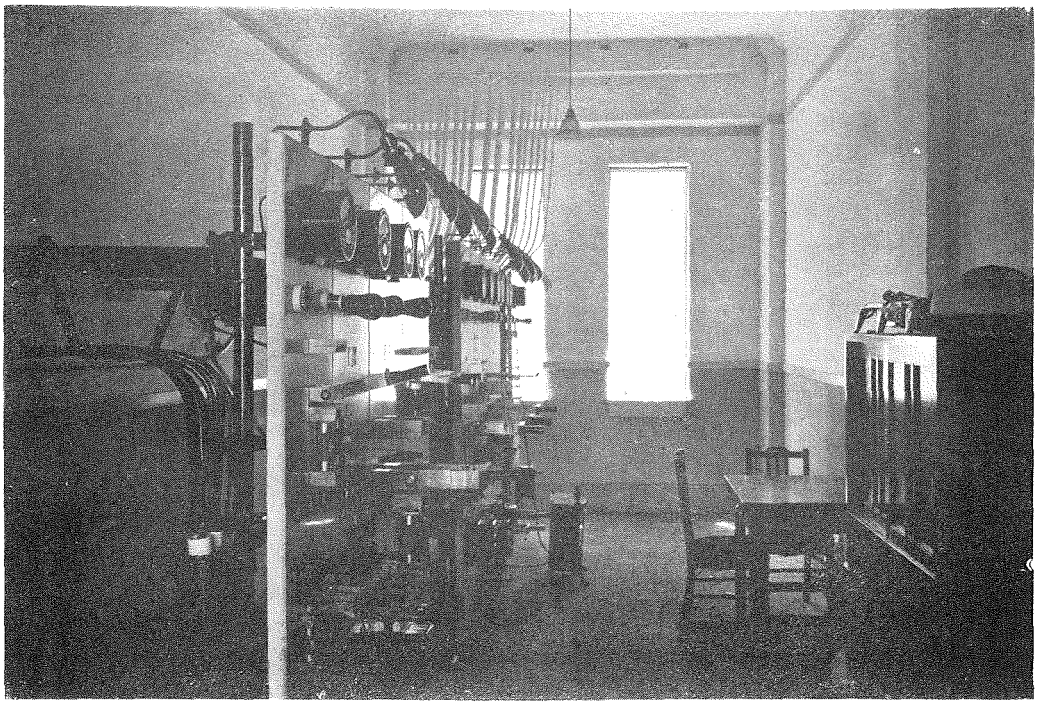


(12) 聖德記念繪畫館主階廣間背後の窓　　(12) View of the Windows.



(13) 同上地階休憩室　　(13) The Rest Room at Ground Floor.

(14) 聖德記念繪畫館地階廊架 (14) The Hall Way.



(15) 同上地階配電室 (15) Switching Room.